

次の文章を読み、後の設問に答えよ。

「人工知能が人間の仕事を奪う」「人工知能が人類を支配する」、こんなタイトルの記事をこのところ、しばしば目にする。

出所の一つは「人工知能の世界的権威」である、レイ・カーツワイルが提案した「シンギュラリティ技術的特異点」なる概念であるらしい（『ポスト・ヒューマン誕生—コンピュータが人類の知性を超えるとき』）。カーツワイルは、急速に進化するIT技術の中で、二〇四五年には人工知能が人間の知能を上回ると予想している。これが「技術的特異点（シンギュラリティ）」である。

これ以外にも、人工知能による人類支配のシナリオを想定している知識人は少なくない。かのホーキング博士は「しゅうえん完全な人工知能を開発できたら、それは人類の終焉を意味するかもしれない」「人工知能が自分の意志をもって自立し、そしてさらにこれまでにないような早さで能力を上げ自分自身を設計しなおすこともあり得る。ゆっくりとしか進化できない人間に勝ち目はない。いずれは人工知能に取って代わられるだろう」と語っている。

さて、私はエクセルのマクロも満足に使いこなせないコンピュータ素人の一人に過ぎないが、人

工知能（以下「AI」）についてはいくつか言いたいことがある。

まず断言しておくが、「AIの人類支配」はありえない。それは知能の高い人がいだきがちな万能感の変形に過ぎない。カーツワイルは前掲書で、人工知能が発展すると最終的には宇宙全体がひとつの知性体となり、その全てが秩序となり、情報となることが「特異点と宇宙の双方にとっての最終的な宿命なのだ」と述べている。まるで「生物都市」や「エヴァンゲリオン」を連想させるような絶望的未来像だが、これはこれで興味深い。万物が合一する未来というイメージは、そのまま胎内回帰であり、万能感の辿りつくのは大体こういうイメージであるからだ。

残念ながら？ そう、残念ながら、カーツワイルの万能感が満たされることは決してないだろう。AIが人類を支配するほど高度化することは決してありえない。それはさまざまな領域に特化した、きわめて高い能力を発揮する補助ツールにはなりうるだろう。そのような意味において、AIには高い価値がある。しかし、人間型の総合的知性として、人間を凌駕する日は決して訪れない。以下にその理由を、順を追って説明する。

もしどうしてもAIに「人間型」の知性を近似
させたいのであれば、そこには大まかに言って二
つしか選択肢がない。

(引用先 2018 埼玉大学 | 経済学部
斎藤環 「AIが決して人間を超えられない理由」)

問 傍線部A「それは知能の高い人がいだきがちな万
能感の変形に過ぎない」とあるが、どういうことか。
百字以内(句読点を含む)でわかりやすく説明せよ。